

- 木材価格の低迷による森林所有者の経営意欲の低下や森林所有者の不在村化、担い手不足、相続による世代交代などから整備が行き届かない森林が増加している。
- 森林の持つ多面的機能を持続的に発揮していくため、造林補助事業等の事業要件に該当しない小規模な森林や市民の日常生活に密接な関わりを持つ里山であって、森林所有者等による持続的な整備が困難な森林について、林業経営者が間伐等の森林整備を実施することにより、健全で活力ある優良な森林を造成するとともに永続的な森林経営を実現することを目的としている。
- 令和2年度においては、
  - ・ 生活保全林の整備として6.87haの補助を行った。

## 事業内容

### 1 小規模森林や生活保全林の整備への支援（ふくいの森林整備事業）

- ・ 小規模な森林や市民の日常生活に密接な関わりを持つ里山で、森林所有者等による持続的な整備が困難な森林の整備経費に対し助成。

【事業費】4,915千円

【補助金】4,809千円（全額譲与税）

【実績】整備面積 6.87ha



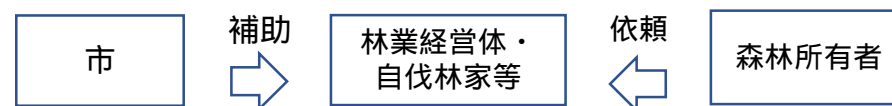
（森林整備施業前）



（森林整備施業後）

## 事業スキーム

### 1 小規模森林や生活保全林の整備への支援（ふくいの森林整備事業）



## 工夫・留意した点

- ・ 集落や生活道路に隣接する森林を整備することで山ぎわの景観の向上にも貢献している。

## 基礎データ

令和2年度譲与額	82百万円
私有林人工林面積（1）	17,460ha
林野率（2）	59.5%
人口（3）	265,904人
林業就業者数（4）	175人

1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

2：「2015農林業センサス」より、3，4：「H27年国勢調査」より